

# 「コロナ禍における帯状疱疹関連痛の発症に影響を与える因子の後方的調査」に関する研究

## 1. 研究の対象

帯状疱疹関連痛に対する治療目的に当院を受診された方

## 2. 研究目的・方法

### 【目的】

帯状疱疹は、体の免疫力が低下した時に神経に潜んでいる水ぼうそうと同じウイルス（水痘・帯状疱疹ウイルス）が引き起こす皮膚の病気で、体の片側で神経に沿って水ぶくれと赤い発疹が帯状に出現し、痛みを伴います。数週間で皮膚症状がなおるとともに痛みも改善する方も多いですが、神経の強くダメージを受けると痛みが長期に持続する帯状疱疹後神経痛となる方もおられ、患者様の生活の質を低下させる要因となります。成人の95%以上が水痘・帯状疱疹ウイルスに罹患しており、多くの人に帯状疱疹発症のリスクがあります。とくに50歳以上で発症しやすくなり、その他の関連する要因としては、ステロイド・免疫抑制剤の使用や、基礎疾患（悪性腫瘍、自己免疫疾患、呼吸器疾患、心血管系疾患、慢性腎不全、糖尿病、精神疾患）がリスク因子となります。

近年、新型コロナウイルス感染症やコロナワクチン接種によって帯状疱疹を発症する患者様が増えています。新型コロナウイルス自体またはワクチン接種による免疫機能の低下や、人と人が接触する機会が減少することによってウイルスに対する免疫が低下していることなどが原因ではないか考えられていますが、詳細な機序は十分に解明されておらず、帯状疱疹に伴う痛み（帯状疱疹関連痛）に対してどう影響を及ぼすのかはまったくわかっていません。

本研究では、帯状疱疹関連痛に対する治療のために当科を受診された患者様を対象に、コロナ禍とコロナ禍以前における患者数の変化を調べるとともに、帯状疱疹関連痛の発症に影響を与えた因子を明らかにするための調査を行います。

### 【方法】

2015年1月～2022年12月に、当科を初診で受診された帯状疱疹関連痛の患者様を対象に診療録の調査を行います。調査項目（罹患部位、初診時の痛みの数値評価スケール(11-point Numerical Rating Scale: NRS)・破局的思考尺度(Pain Catastrophizing Scale: PCS)・抑うつ評価尺度(Hospital Anxiety and Depression Scale: HADS)、発症年齢、性別、ステロイド・免疫抑制剤の使用有無、基礎疾患(悪性腫瘍、自己免疫疾患、呼吸器疾患、心血管系疾患、慢性腎不全、糖尿病、精神疾患)の有無)がすべて満たされている方を対象とします。2020～2022年をコロナ禍と定義して、全初診患者における帯状疱疹関連痛患者の割合、および急性～亜急性期(発症3ヶ月以内)の帯状疱疹関連痛患者の割合を

コロナ禍とコロナ前で比較します。また、带状疱疹関連痛の患者様をコロナ禍前に発症した群とコロナ禍に発症した群に分け、各調査項目を群間で比較します。

**【研究期間】**

研究機関の長の実施許可日 ~ 2024年3月31日

**3. 研究に用いる試料・情報の種類**

情報：年齢、性別、既往歴・併存症とその治療内容、带状疱疹発症日、発症した神経の部位、初診時の問診票

**4. お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所： 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2

電話番号： 06-6879-3133

研究代表者：大阪大学大学院医学系研究科麻酔・集中治療医学教室 松田陽一